

会員サイト公開用 役員活動報告書

名 前	伊藤智典
担当業務	<ul style="list-style-type: none"> ・JANNET(障害分野 NGO 連絡会)では、監査役(監事)として運営にかかわりながらも、国際開発分野の障害関連の情報収集ならびに、障害当事者団体や人道支援系のNGOなどとの関係醸成をしながらインクルーシブ社会の実現に貢献しています。 ・日本障害者リハビリテーション協会では、国際委員として会議に参画し、国際的な障害者を取り巻く動向の確認など、会員の活躍に資する取り組みをしています。 ・World Physiotherapy では、AWP region(世界理学療法連盟アジア西太平洋地区)の執行委員会の委員として AWP region の委員会会議、総会・学会に参加し、次の AWP 学会の検討、Webinar 企画・運営を通じ、理学療法士の活躍促進、専門性向上や職域を広げることで、グローバルヘルスの向上にむけた諸活動を行っています。

内 容			
日 付	他団体	会議名	場所
10月4日		第5回理事会	オンライン
10月10日		日本理学療法士連盟研修会	都内
同上		60周年記念式典・祝賀会	都内
10月11日		組織運営協議会	都内
10月16日	○	日本障害者リハビリテーション協会 国際委員会	オンライン
11月2日	○	JANNET 中長期計画検証委員会	オンライン
11月5日	○	AWP 執行委員会 会議	オンライン
11月13日		JICA 海外協力隊 60周年記念事業	都内
11月19日	○	JANNET 障害分野 NGO 連絡会役員会	オンライン
11月26日	○	第12回リハビリテーションを考える議員連盟総会	都内
12月5日		賛助会員懇談会	都内
12月6日		第3回理事懇談会	都内
同上		第6回理事会	都内
12月15日	○	JANNET 中長期計画検証委員会	オンライン
12月16日	○	日本障害者リハビリテーション協会 国際委員会	オンライン
		10月4日 理事が開催されました。本会の定款 第6章に定められている事項のうち、以下の(1),(2)の決議を行いました。	
所感		<p>【定款第6章 理事会の職務より】</p> <p>(1)この法人の業務執行の決定 (2)理事の職務の執行の監督</p>	

	(3)会長の選定及び解職 (5)専務理事の選定及び解職	(4)副会長の選定及び解職 (6)常務理事の選定及び解職
特に、令和 9 年度報酬改定（介護・障害福祉）に向けた中期目標（案）および重点要望事項（案）、並びに組織体制に関する議論が行われ、本会の方向性を役員一同で共有いたしました。		
10 月 10 日には日本理学療法士連盟研修会に参加し、今後の活動に向けた主要課題や取り組みの方向性について理解を深めました。同日に開催された 60 周年記念式典では、厚生労働大臣表彰を受章された先達の先生方のご功績に触れ、改めて敬意を表する機会となりました。		
10 月 11 日の組織運営協議会では、次年度の事業計画および重点事業案を中心に、都道府県士会の代表者の皆様と活発な意見交換を行いました。組織全体の中長期的な方向性を踏まえつつ、現場における具体的課題への対応にむけた、都道府県士会の先生方との強固な連携の重要性を再認識いたしました。		
10 月 16 日には日本障害者リハビリテーション協会 国際委員会に出席し、国連障害者権利条約や国際会議に関する最新動向を共有いただきました。併せて、国際的な市民社会のネットワーク組織の運営に伴う現実的な課題も実感する機会となりました。		
11 月 2 日の JANNET 中長期計画検証委員会では、同組織が転換期を迎える中、監事としてチェックシート作成への関与を求められ、次年度に向けた改善の検討が進められています。		
11 月 5 日の AWP 執行委員会では、2026 年 9 月にインドで予定されている AWP 学会に関する準備状況の共有が行われました。伊藤からは加盟組織の主体的な参加を促す取り組みの必要性について、引き続き提案を行っております。		
11 月 13 日には、本会を代表して JICA 海外協力隊 60 周年記念事業に出席しました。海外協力隊として活動する理学療法士隊員の報告も拝見いたしました。本会の中長期計画に掲げる中、国際的な会員の活躍促進に関する取組と通底する内容であり、非常に示唆に富む機会となりました。		
11 月 19 日に開催された JANNET 障害分野 NGO 連絡会役員会では、「誰一人取り残さない」ための事業やデフリンピックに関する情報が共有されました。監事として、事業執行の状況について引き続き確認しております。		

	<p>11月26日の「リハビリテーションを考える議員連盟」総会では、国民に対するリハビリテーションの重要性および理学療法士の処遇改善の必要性について、多くの議員から力強く推進するご意見が示されました。本会が継続的に進めてきた取り組みの意義が再確認された、大きな成果だと捉えております。</p> <p>12月5日の賛助会員懇談会では、賛助会員数が過去最大に達していることが報告されました。本会の社会的意義および存在感が高まっていることの表れであり、今後も官・民・学など多様な連携による事業の推進が重要であると考えております。</p> <p>12月6日に開催された理事懇談会および理事会では、次年度の事業計画・予算案、生涯学習に関する取り組み、並びに定款細則に関する審議が行われました。会員の皆様の視点を踏まえつつ、現実的かつ実務的な方向性が議論されました。</p> <p>12月15日のJANNET中長期計画検証委員会では、SDGsに関連する指標との関係性の検討が進み、監事としての立場から体系的な整理に努めております。</p> <p>12月16日の日本障害者リハビリテーション協会国際委員会では、世界的動向を踏まえ、今後の国際連携のあり方に関する検討が開始されました。</p> <p>2025年は100周年にあたるデフリンピックが初めて日本で開催されました。障害分野のスポーツおよび関連活動が社会的に注目されつつあります。しかしながら、障害者の権利や、公平で公正な社会の実現には、理学療法士がリハビリテーションの必要性と意義を継続して発信し続けることが不可欠であると考えております。</p> <p>障害のある方々を取り巻く環境・社会・制度の改善に向け、各団体と協力しながら引き続き取り組んでまいります。ご不明点等がございましたら、どうぞご遠慮なくお問い合わせください。お時間がかかるかもしれません、お返事させていただきます。</p> <p>伊藤智典 E-mail address t-ito@japanpt.or.jp</p>
報告日	2026年1月27日

※「他団体」に○がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。